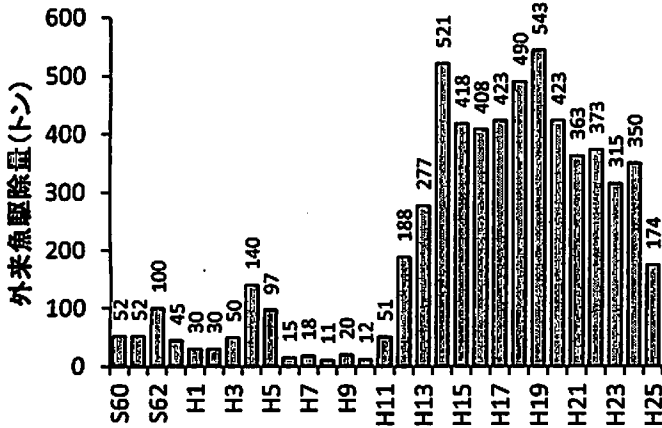


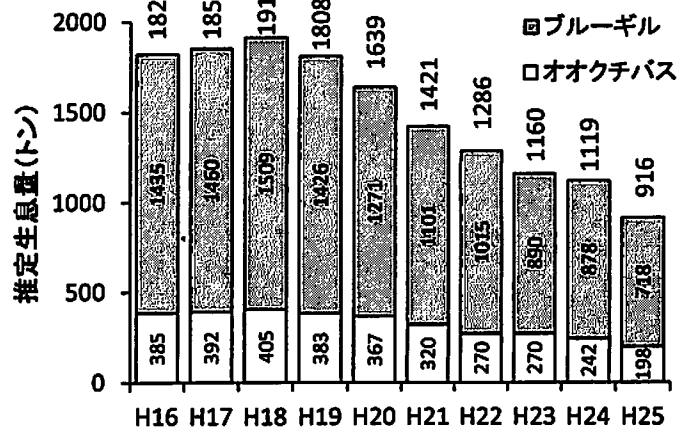
外来魚駆除の状況について

1. 駆除量と生息量の推移

○水産課事業における外来魚駆除量の推移



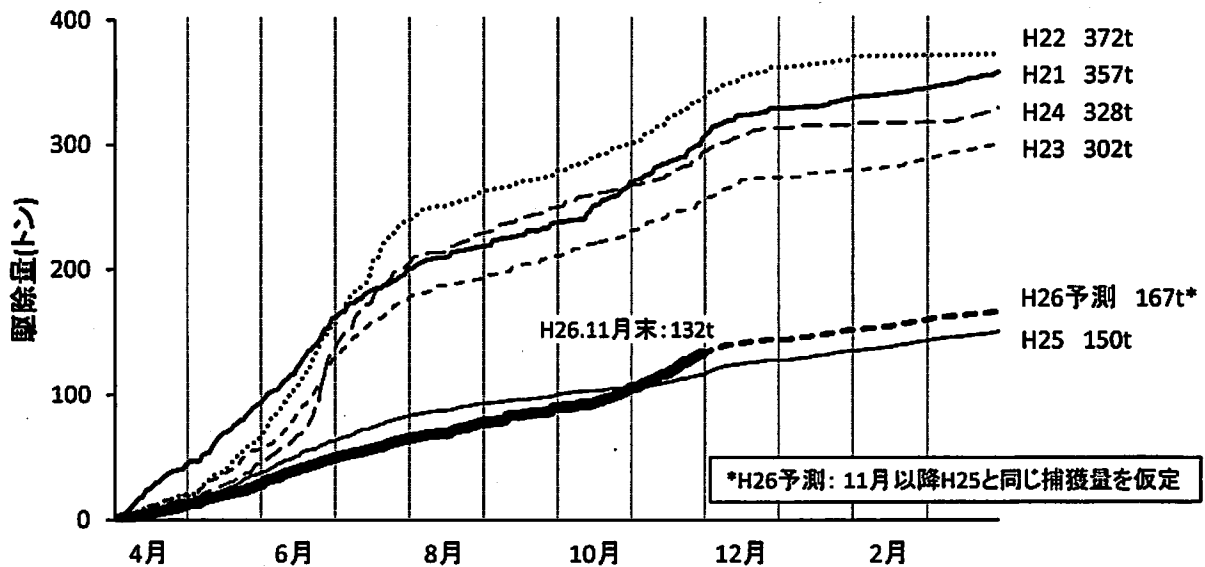
○外来魚推定生息量



推定は4月1日時点

2. 今年度の駆除の経過と今後の見込み

○外来魚駆除促進対策事業(経費補助)の過去5年の実績および今年度の経過と見込み



○平成26年度の水産課事業における駆除量の計画

駆除方法		当初計画(トン)	年度末見込み(トン)
外来魚駆除促進対策事業(漁業者による駆除。300円/kgの経費補助)		315.0	167.0
電気ショックカーポートによる駆除	南湖(オオクチバス稚魚発生抑制事業、赤野井湾の在来魚復活事業)	21.0	10.0
	西の湖(内湖の在来魚生産機能の回復・向上試験事業)	1.0	1.1
刺し網による駆除(オオクチバス稚魚発生抑制事業)		4.0	4.0
合計		341.0	182.1

○駆除量減少の背景

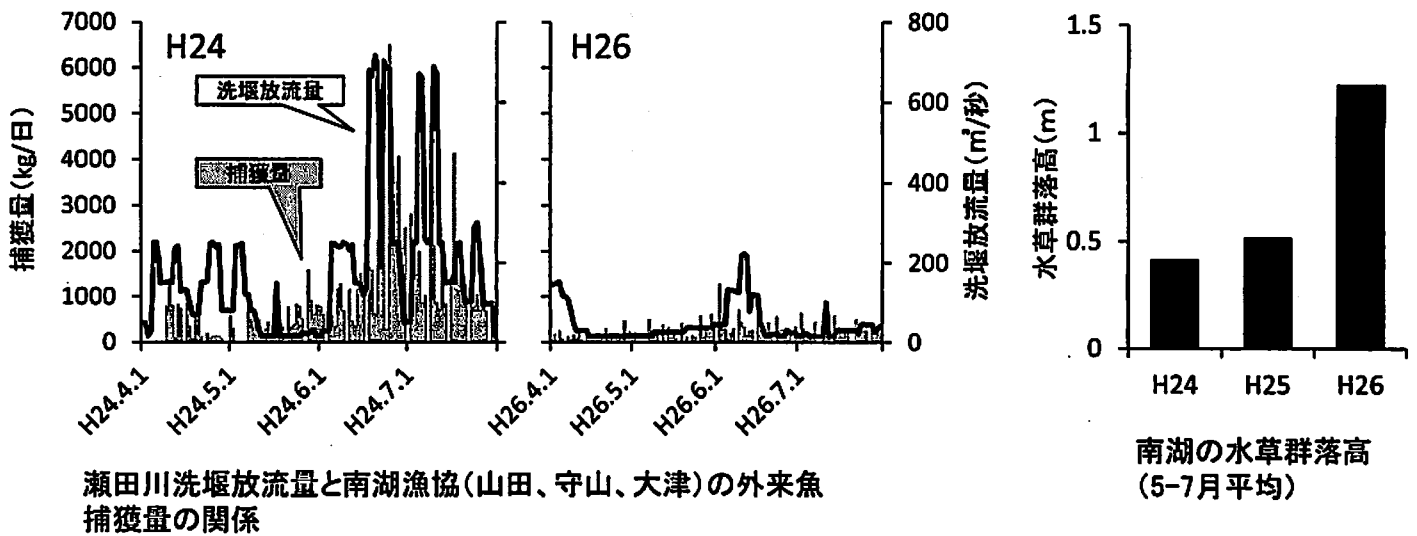
【外来魚生息量の減少】⇒推定生息量はH25に初めて1000トンを下回った。生息量の低下に伴い捕獲効率が低下。

【梅雨時期の少雨】⇒降雨に伴い瀬田川洗堰からの放流量が増加すると、南湖では流れが生じて外来魚の活動が活発になり、エリで捕獲されやすくなる。このため年間捕獲量の4～6割が梅雨時期を中心とした5～7月に集中。

⇒平成26年度は少雨により洗堰からの放流量が減少し、エリで捕獲されにくかった。

【水草の異常繁茂】⇒南湖では水草の繁茂が著しく、捕獲作業が困難（漁船の航行障害、漁具の設置が不能）。

【捕獲意欲の低下】⇒燃油や資材費の高騰と捕獲効率の低下が相まって、捕獲意欲が低下。



○今後の駆除のポイント

- ・H25、H26と駆除量が大幅に減少したため、生息量は増加に転じている可能性がある。
- ・しがの農業・水産業新戦略プランに掲げる目標値「平成27年度末(平成28年4月当初)に外来魚生息量900トン」を達成するには、年間245トンの駆除が必要と試算される。

